

「和敬清寂」という原則と茶の湯との関係

マリア フロレンティナ

0242001

マラナターキリスト教大学

文学部日本語学科

バンドン

2008

和敬清寂という原則と茶の湯との関係

I. 序論

日本社会の中では、茶の湯は今でも社会においてよく知られた日本文化の一つである。茶の湯は平安時代で唐（中国）へ渡った遣唐使によって伝えられたものである。

茶の湯は飲み会で単にお茶を楽しむことではない。その他に、亭主と客の間で精神的な経験の交換の役を持っている。その目的を達成するために、行う際に茶の湯は昔から維持されている方式を持っている。その方式は亭主と客との義務であり、正しくやらなければならないものである。それらの方式にはそれぞれの意味と目的がある。

この茶の湯は最初はただいくつかのお寺で行う単なる習慣であり、庶民には知られていなかったが、そのあとだんだん広がり、日本社会に人気を持っているようにたったのである。庶民の中で広がることにより、茶の湯のやり方や茶の湯に含まれた価値に悪い影響を与えた。それは、決まっていたやり方においてたくさんの逸脱が行われ、茶の湯で創造されたはずの価値が薄くなったのである。

この意義方法の後退により、茶の湯のにおいて精神的価値になる「和敬清寂」という原則が出来たのである。「和敬清寂」という原則は千利休に

よって四つの漢字に簡単にされた禅の教えであり、その四つの漢字は：

「和」は調和のことで、亭主と客と回りの自然のことである。そして、
「敬」は敬意のことで、感謝の気持ちから相当尊敬のことである。次に、
「清」は清純のことで、体と心のきれいさを含む清純である。そして最後に、
「寂」は自分自身の静かさ、また何かにも動じない落ち着いている心を持つことである。

精神的価値になった「和敬清寂」と茶の湯の方式の関係を研究するために、記述分析方法が利用できる。この方法は二つの単語から作られ、それは記述と分析である。記述という単語は陳述及び描写することで、分析はあることを分析することである。記述は、「和敬清寂」という原則の意味や茶の湯にある方式のすべてを述べるために使う。分析は述べた「和敬清寂」の原則と茶の湯の方式の関係を分析するために使う。

II. 分析

茶の湯の方式にはそれぞれの意味や目的がある。「和敬清寂」の原則は茶の湯の中にあるやり方の土台になる精神的価値である。したがって、このような茶の湯のやり方は「和敬清寂」の原則と深い関係を持っている。この方式は茶の立て始めから式が終わるまでの方法である。

客達は心の準備、服を気物に着替え、靴を足袋に替えるのため、普通茶会の20分か30分前に着き、それから、待合に進み、他の客を待つ。茶会の前に来ることは茶の湯に参加するために普段生活から離れ、心を準備し、自分を落ち着かせるために意味がある。これには「寂」の原則が含まれる。服と靴を着物と足袋に替えることは「清」の原則の適用である。服と靴を替えることは自分にある汚れを放ち、世俗的なことと離れるという意味を持っている。待合では他の客を待つ間に静かにし、会話を交わさない。他の客を待つことは自分が尊敬の気持ちを見せ、敬意を払う意味を持つ。この態度は「敬」の原則に含まれている。また、生まれた静寂さは「寂」の原則の適用である。

客達は部屋の外で庭のきれいさを楽しみながら亭主を待っている。その間客達は静かにし会話をしない。この静かさの中で彼らは心の中で対話である。それにより調和が生まれるのである。。このやり方では自然との調和も生まれる。この静かさと調和は「和」と「寂」の原則の適用である。主客が目先に、部屋を出て、その場所に着くと、主客は他の客のために座布団を用意する。この二つのことは「敬」の原則の適用である。「敬」の原則では高い地位を持っている人が尊敬されるはずだが、低い地位を持っている人も尊敬する必要がある。

茶室に入る前に、客達は亭主に迎えられ、それから、お互いに無言で挨拶する。そして、客達はつくばいに行く。お互いに無言で挨拶することは「敬」と「寂」の原則の適用である。「敬」の原則は亭主と客との尊敬を払い合うことから見られる。それから、「寂」の原則はお互いに挨拶するとき静かな態度で行うことから見られる。客達はつくばいで手や口を洗い、自分を清らかにする。これは「清」の原則の適用である。清らかさは身体的と精神的のきれいさからできるものと思われる。

客達はにじり口を通り、茶室に入り、自分の草履を脱ぎ、靴脱ぎ石にきれいに整える。入って後に、客達はすぐ床の間と道具畳に進む。この方式では客達が這い進みながら、にじり口を通り、自分達の履き物を脱ぎ、きちんと置くことは他の人を尊敬する仕方の一つある。静かに這い進みながら部屋に入ることは「寂」の原則の適用である。「敬」の原則により、人は物を尊敬しなければならないと言っている。このことは床の間にある掛け物におじぎし、道具畳にある道具をみることに見られる。このときに、客達は床の間にある花やきれいな水がある花瓶に関心を持つ。花や花瓶を眺めるとき、嗅覚が清められる。これも「清」の原則である。

お茶を用意する前に、亭主は袱紗捌きや茶筌通しをし、茶碗を拭き、道具をきれいにしなければならない。このことも「清」の原則の一つである。亭主がお茶を作り始め、茶杓でお茶を取り、茶杓をきれいにするために、く

つついていなお茶を落とすように茶碗に茶杓をぶつける。この方式も「清」の原則の例である。お茶が出来上がったら、亭主は客に茶碗を渡す。客を尊敬するために、茶碗の前側が客に向かうように茶碗を回す。この敬意も「敬」の一つである。

客は茶碗を取るために前に進み、自分と他の客の間で茶碗を置き、亭主が挨拶してから、ゆっくり飲む。この方式では「和敬清寂」の全ての原則が含まれる。「和」と「敬」は客が他の客におじぎをするときとか亭主が挨拶するときに見られる。一方、「清」と「寂」は客が茶碗を握り、ゆっくりお茶を飲むときに見られる。茶碗を握ることにより、触覚が清められる。お茶を飲み終わったら、懐中紙で口に当たった茶碗の部分を拭く。この拭くことは「清」と「敬」の適用である。「清」は目的から見られる。つまり、茶碗を拭くことである。また「敬」も目的からも見られる。つまり、亭主に礼と感謝の気持ちとして茶碗を拭くことである。

全客がお茶を飲み終わったら、亭主は使った道具を全部洗う。この方式は「清」である。亭主が洗い終わったら、客に棗や茶杓を見させ、それから、亭主は茶道口に行き、客達におじぎする。この方式では「敬」が含まれる。棗や茶杓を見る目的は亭主に対して敬意を払うである。

III. 結論

第3章において行った分析により、「和敬清寂」と茶の湯に全ての方式の関係が見られる。ほとんどの方式では「和敬清寂」の一つが含まれている。「和」は人間関係や周りの自然にみられる。「敬」は亭主と客との敬意の払い合いから見られる。「清」は道具や自分を清めることに見られる。最後に「寂」は茶会の最初から最後まで見られる。「寂」が他の三つの原則の達成のためである。この「和敬清寂」は茶会において、望む精神的価値が生まれ、伝統の方式に逸脱がないことを導くものである。

DAFTAR ISI

Kata Pengantar	i
Daftar isi	v
Bab I Pendahuluan	1
1.1 Latar Belakang	1
1.2 Pembatasan Masalah	3
1.3 Tujuan Penelitian	4
1.4 Metode Penelitian	4
1.5 Organisasi Penulisan	5
Bab II Prinsip <i>Wakeiseijaku</i> dan Tata Cara dalam <i>Chanoyu</i>	8
2.1 Prinsip <i>Wakeiseijaku</i>	8
2.1.1 <i>Wa</i>	10
2.1.2 <i>Kei</i>	12
2.1.3 <i>Sei</i>	15
2.1.4 <i>Jaku</i>	17
2.2 Tata Cara dalam <i>Chanoyu</i>	19
Bab III Hubungan Tata Cara <i>Chanoyu</i> dengan Prinsip <i>Wakeiseijaku</i>	25
3.1 Persiapan Untuk Para Tamu	25
3.1.1 Kedatangan Para Tamu	26
3.1.2 Para tamu menunggu kedatangan tuan rumah	28

3.2 Upacara Minum Teh	30
3.2.1 Sebelum memasuki <i>chashitsu</i>	31
3.2.2 Para tamu memasuki <i>chashitsu</i>	33
3.2.3 Penyajian teh oleh tuan rumah	37
3.2.4 Para tamu menerima dan meminum teh	42
3.2.5 Membersihkan peralatan yang digunakan	48
3.2.6 Akhir upacara	49
Bab IV Kesimpulan	52
Sinopsis	vii
Daftar Pustaka	xiii
Lampiran	xv
Riwayat Hidup	xxi